

# 独占型資格と賃金および仕事満足度との関連にかんする基礎分析

——周辺の労働に関する短期パネル調査より——

京都大学 山本耕平

## 1 目的

本報告の目的は、賃金などの諸条件にもたらす効果のメカニズムに注目した資格の分類にもとづいて、資格と賃金や仕事満足度などとの関連について検討することである。日本の労働市場における資格の効果については、数は少ないながらも実証的な研究が進んでいるが（阿形 2000; 池田 2015）、どのような資格がなぜ効果を持つ（あるいは持たない）のか、というメカニズムの検討に取り組んでいる例は少ない。一方、資格にかんする欧米の先行研究では、資格の効果のメカニズムが資格と結びついた職業の社会的閉鎖によって説明されることが多いと思われるが（Bol and Drange 2017）、分析対象となるのは資格が求められる職業とそうでない職業の差異であり、資格を持つこと自体の効果が検討されているわけではない。

## 2 方法

そこで、2017年7月・11月・2018年2月に実施された若年者を対象とする短期パネル調査から、サンプル脱落のない第1波のデータをおもにもちいて、資格所持者と非所持者の相違にかんして基礎的な分析をおこなった。同調査は20～29歳の男女を対象としたインターネット調査で、年齢・性別・学歴別に割り当てをおこなっている。

調査では、資格を「特定の職業につくための要件として求められる資格」（独占型）、「特定の職業につくために必須ではないが、その職業における能力を認定する資格」（認定型）、「さまざまな仕事に関連する一般的な能力を証明する資格」（一般）に分類し、複数の種類の資格をもっている場合は独占型・認定型・一般の順に優先して、所持している資格を回答してもらった。これらの資格のうち、先行研究で言及されている社会的閉鎖の効果を持ちうるのは独占型なので、独占型の資格に注目する。予測として、(1)独占型の資格を持つ人は資格を持たない人に比べて賃金が高いこと、(2)賃金が高いとすれば、その効果は職業変数（専門職ダミー）に媒介されていること、(3)（賃金の高さにより）仕事満足度が高いこと、の3点を挙げ、検証した。

## 3 結果と結論

分析の結果、(1)はおおむね確認されたが(2)に合致する結果は見られず、独占型資格を持つことは専門職であるかどうかとは独立の効果を示すことが明らかになった。また、(1)にはジェンダー差が見られ、独占型資格が賃金と関連するのは女性においてであった。女性の労働市場において、独占型資格を持つことは、それと結びついた職業への入口となるだけでなく、何らかの能力を示すシグナルとして機能しているのかもしれない。(3)についてもジェンダー差があり、効果が見られたのは資格と賃金には関連がない男性においてであったため、資格が賃金を介して仕事満足度を高めているという解釈は支持されなかった。当日は、第2波以降のデータも加えた追加的な分析の結果についても報告する。

## 文献

阿形健司, 2000, 「資格社会の可能性：学歴主義は脱却できるか」近藤博之編『戦後日本の教育社会』東京大学出版会, 127-48.

Bol, T., and I. Drange, 2017, “Occupational Closure and Wages in Norway,” *Acta Sociologica*, 60(2): 134-57.

池田岳大, 2015, 「職業資格の取得が女性の再就職移行にもたらす効果」『社会学年報』(44): 47-57.